

敦賀発電所2号機の定期検査状況について (原子炉補機冷却水冷却器の点検状況)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所2号機(加圧水型軽水炉:定格電気出力116万kW)は、第15回定期検査の調整運転(定格熱出力一定運転)中のところ、原子炉補機冷却水系統^{*1}に4台(A、B、C、D)ある冷却器のうち、A冷却器から海水側に冷却水が漏れていることが確認された。このため、A冷却器を隔離して伝熱管漏えいの有無を調査したところ、伝熱管7本で漏えいが確認された。

詳細点検や補修作業を行うため、平成18年10月5日0時から出力降下を開始し、同日8時に発電を停止、11時に原子炉を手動停止した。

なお、この事象による周辺環境への放射能の影響はない。

※1:原子炉補機冷却水系統

原子炉補機(1次冷却材ポンプの軸封部、使用済燃料プールの熱交換器等)の冷却のため、冷却水を供給する系統。冷却水は、冷却器の3,096本ある伝熱管(黄銅製)に流れる海水により冷やされる。なお、冷却水に放射能は含まれていない。

[平成18年10月4日 記者発表済み]

1 A冷却器の点検状況

A冷却器の伝熱管3,092本(調査のため抜管した3本および既施栓済みの1本を除く)について渦流探傷試験(ECT)を実施した結果、伝熱管1,514本で施栓基準(40%以上の減肉)に達する指示信号が確認された。

当該冷却器の伝熱管においては、過去の点検で減肉傾向が認められていなかったことから、今回の減肉の原因調査のため、漏えいが確認された伝熱管7本のうちの1本と漏えいが認められていない伝熱管2本の合計3本を抜管し、工場において詳細な調査を実施中である。

2 今後の予定

A冷却器で多数の伝熱管に減肉が確認されたことから、B・C・D冷却器の伝熱管全数について、渦流探傷試験（ECT）を実施する予定である。

また、工場での詳細調査結果や過去の作業実績等から、原因について調査を行う。

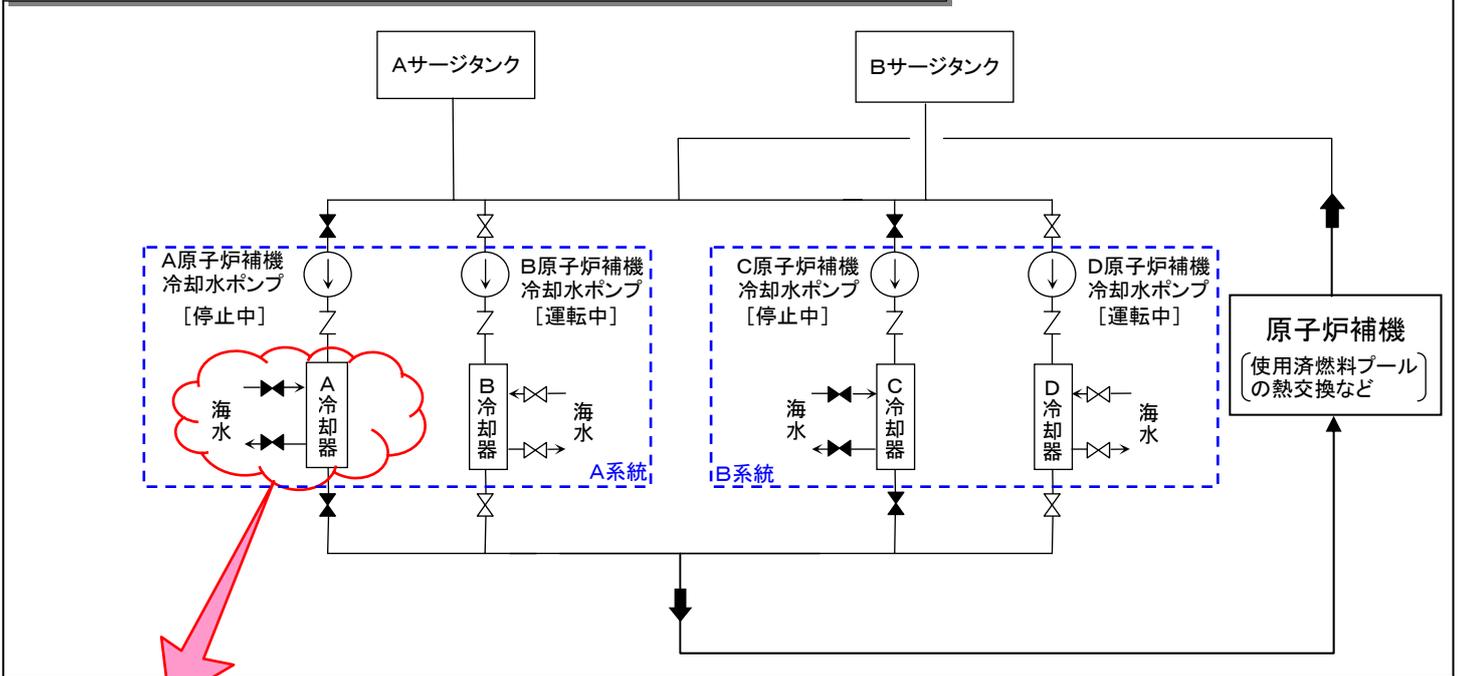
（経済産業省による I N E S の暫定評価尺度）

基準 1	基準 2	基準 3	評価レベル
—	—	0 —	0 —

問い合わせ先(担当：藤内)
内線2354・直通0776(20)0314

原子炉補機冷却水冷却器 点検状況図

原子炉補機冷却水系統概略図 (10月13日現在の運転状態)



A冷却器渦流探傷試験(ECT)結果

